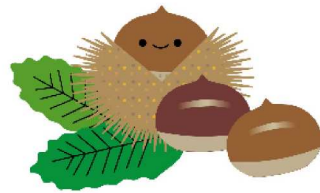


せったん

北摂・丹波支部

第137号 2011年11月25日

発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
行 TEL078-393-1801 (代) FAX 078-393-1802



岡本晴夫先生引率のハイキンググループ



福田俊明先生引率の美術館見学グループ



福田先生の指導を受けて陶芸教室

①紅葉の虚空蔵山 立杭焼 ハイキング & 陶芸教室 または、 ②陶芸美術館見学

北摂・丹波支部では、11月3日に「虚空蔵山ハイキング または陶芸美術館見学と陶芸教室」を開催。午前中は「ハイキング」と「美術館見学」に分かれ、午後は陶芸体験を楽しんだ。11人が参加した。

三田市と篠山市にまたがる虚空蔵山ハイキングはお天気に恵まれ、秋が深まる虚空蔵山の自然を満喫した。兵庫陶芸美術館では、特別展「日独150周年企画・国立マイゼン磁器美術館 マイゼン磁器の300年」が開催されており、有田焼きの影響も受けていると言われるマイゼン磁器を觀賞した後、「立杭陶の郷」を見学した。午後は合流して全員で陶芸体験を楽しんだ。

参加者の前野晴香ちゃん(伊丹市・まえの耳鼻咽喉科・小3)の感想文を紹介する。

【感想文】

お父さんとお母さんと弟と家から宝塚駅まで行って電車に乗り、藍本駅で降りました。少し歩いたら「酒垂神社」がありました。立札に昔の算数の問題が書いてありました。その後山道を登って行きました。山の名前は「虚空蔵山」で、596mの高さです。また歩いて行くと「虚空蔵堂」というお寺がありました。鐘がなかったので鳴らしたらしい音がしました。さらに登って行くと、急な山道になって滑りそうな場所がありました。木をつかみながら登りました。何回かこけそうになったけど、木をつかんでいたからこけませんでした。

登る前は少し暑かったけど山道は涼しかったです。もうすぐ山頂というところで岩が多くなりました。最後登るの

在宅医療研究会

認知症の基礎知識

—アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型—



講師の土山雅人先生

北摂・丹波支部では、10月15日に在宅医療研究会「認知症の基礎知識」を開催、会員のほか訪問看護師やヘルパーなど41人が参加した。

講師の土山雅人先生(西宮市・つちやま内科クリニック)は、認知症は現在ではコモディティーズになっているとし、その代表的なアルツハイマー型・レビー

小体型・前頭側頭型のそれぞれの病態や症状の特徴などについて解説した。土山先生は「それぞれの型の症状に特徴はあるが、固定したものではない」ことも留意する必要があるとし、言葉かけなど認知症患者に接する時の注意点についても詳細に説明した。



山頂でお弁当を食べました。食べ終わって山を降りました。行き道と違う道を降りました。杉の木がいっぱいあって、太陽の光が当たっていません。たから、昼なのに暗い道でした。急な坂道や階段が多く、つがはまったり、少し滑って二回こけました。ふもとに降りたらそこが「立杭陶の郷」でした。しばらく休憩して立杭焼の陶芸教室(稲右衛門窯)に行きました。

陶芸教室では窯元の先生(稲右衛門先生)と引率の先生(福田先生)が色々教えてくれたので、楽しく丁寧に作れました。まずお皿を作ってお皿に熊の絵を描きました。熊も作りたくなつたと言ったら、福田先生が熊の形を作ってくれました。それに目を描いて鼻を付けたら可愛くなりました。焼いたものはまた家で送られて来るそうです。陶芸はとても楽しかったのでまた作ってみたいです。

(この度は北摂・丹波支部の福田先生、岡本先生・事務局の平井さん・黒木さんにはお世話になりました。特に岡本先生にはハイキングの巧みな引率・案内、福田先生にはそば打ちでもおなじみの素人にも明解で楽しい陶芸での指導には家族全員大変感謝しております。今後も家族で参加できるレクリエーション楽しみにしております。ありがとうございました。前野)



お皿とクマの置物を製作している様子
絵・前野勝哉くん(6才)

会員訪問
インタビュー⑤

「院長はえらい!?!」

三田市・安部整形外科クリニック
安部 治郎 先生



支部幹事の安部治郎先生(診察室にて)

今回の訪問インタビューは、10月で開業されてちょうど15年目を迎えられた支部幹事の安部治郎先生(三田市三輪・安部整形外科クリニック)をお訪ねした。

「ご出身は九州とお聞きしましたが、三田で開業されたきっかけをお聞かせ下さい。」

安部治郎先生(以下、安部)

高校卒業までは宮崎にいました。大学が大阪で、そこで知り合った妻の実家が三田だったので、ここで開業することになりました。妻はそのまま大学に残って基礎医学の分野で働いているので、共働きです。

「開業された当初から支部幹事をお引き受けただていますが、協会や支部との関わりで感じられることはありますか？」

安部 協会には開業前に融資の相談をしたことがきっかけで入会しました。支部幹事に顔を出すようになったのは、当時支部役員をされていた辻井寧繁先生にお誘いいただいたことからです。

経済情勢などの問題に興味がありますが、幹事会では歯科の先生も一緒に話ができるので、自分の疑問に答えてもらえるので、楽しく参加させてもらっています。

「先生は協会の医院経営研究会にも熱心にご参加いただいています。確定申告もご自身でされるようになったのですね。」



受付横のレセコンでレセプトチェックの様子を再現

安部 以前から経費の面からも、申告や税務を税理士の先生にすべて任せしめることに疑問を感じていました。支部幹事会でもそのことを論議して、会員にアンケート調査もしました。支部総会で幹事の中西透先生からパソコンを使った「自分で出来る申告準備」のお話を聞いたことと専従者給与がないこと、年間保険収入が5千万円以下となったことがきっかけで、自分でやってみようと思うようになりました。

最初は悪戦苦闘しましたが、今はずいぶん慣れてきて、日々の伝票整理から申告書の準備まで全部自分でやっていますよ。(診察室のキャビネット内にきれいに整理されている伝票を見せていただきました)

これからは、11月に固定資産税、12月は年末調整がありますが、医院の会計はある程度決まった形になっているので会計ソフトを使いなれたら比較的楽だと思っています。

「税務だけではなく、レセプト作成も先生がされているのですか？」

安部 日常の会計は職員にやってもありますが、月々の会計のチェックとレセプト作成、提出前点検は、レセコンと私がしています。

ただ、個人のクリニックでは、経理のことだけではなく、レセプト請求についても何でもすべて院長は職員の誰よりもよく知っていないといけないというのが私のポリシーです。



テナント入居も可能なスペースも確保されている安部整形外科クリニック(三田市三輪)

「そうでない」と職員が都合で急に退職するようないことがあったりするとたちまち困りますからね。

ほかに、医院周りの庭木の水やりや剪定、レジの釣銭の両替、診療時間前の掃除もしてまますよ(笑)

「毎日の診療の中で感じておられることや興味のあることは何でしょうか？」

安部 開業時に比べると家も人も増えたとは思いますが、この辺りもずいぶん高齢化が進んできました。それにこの間の患者負担増で去年くらいから受診抑制のためか明らかに受診回数が減っている患者さんが多いことを感じます。来年の診療報酬改定の如何によっては、さらに影響がでるかもしれません。

「医院の経営とも密接な関係があるとは思いますが、これから経済がどうなるかということも個人的にはとても関心があります。」

また、「9条の会」にも入らせてもらっていますが、9条を変えないということと盾の防衛のための9条を諸外国に認めさせていく運動が必要だと思っています。

原子力発電もなくしていく方向がよいと思いますが、簡単ではないかもしれませんね。

しかし、一人でやるのは本当に体がえらい。

「お忙しいところありがとうございます。」

保団連公害視察会

保団連は、10月15日、16日に公害視察会を実施。全国から68人が、福島県の福島市と飯舘村を訪れ、東日本大震災と福島第一原発事故の被害状況を視察した。兵庫協会から、池内春樹理事長、森下順彦支部長ら4人が参加した。(兵庫保険新聞11月5日号に参加記掲載)